

令和8年6月定例会議 一般質問【日曜議会】

7番議員 今西 景子

飼う人も飼わない人も幸せな開成町へ ペット共生について問う

少子高齢化が進む現代において、日本では15歳未満の子どもの数よりも、犬・猫を合わせたペットの飼育数が上回る時代となった。ペットの存在が人に与える効果は大きく、子どもの情操教育、飼い主の心身の健康促進、高齢者の孤独軽減など、科学的にも多くの効果が国内外で示され、その効果から医療・福祉・教育現場でも導入が進んでいる。今やペットは単なる愛玩動物ではなく、共に生きる家族の一員となり、多くの人々がペットと幸せに暮らすことを望んでいる。本町では、ペットとの暮らしを重視して移住を決める方も見受けられる。

一方で、散歩時のマナー違反、糞尿問題、ペットの遺棄や脱走、鳴き声、咬傷事故などは行政としても取り組むべき問題であり、ペットを飼わない方の生活環境を守ることも極めて重要である。飼う人も飼わない人も幸せに暮らせる社会の基盤づくりに、本腰を入れて取り組む時期が到来していると考え、ペット共生について次の項目を問う。

- 1 本町のペット共生に対する考えは。
- 2 飼う人、飼わない人双方の生活環境を守るための施策は。
- 3 ドックイベント、ペット同伴マップなどペット共生をまちの魅力づくりの一つとして捉える考えは。